

⑤ 落合総合センター建築工事

受賞機関 岡山県 真庭市

全建賞審査委員会の評価ポイント

地区の拠点となる市役所の支所、公民館、保健センターなどを備えた木造準耐火構造の多機能複合施設整備事業。燃えしろ設計による木構造の最大化を図るほか、木チップ等のバイオマス熱源による空調システムを導入するなど、地場産材の活用による地域産業の活性化やCO₂排出量の削減に寄与するものとなっていたことを評価。

1. はじめに

真庭市は古くから木材の集散地であり、市内に約30カ所もの製材所がある。現在は「バイオマスタウン真庭」と称し、木質資源を活用した地域振興が軌道に乗りつつある。落合総合センターはこのような杜の都でなければできない環境共生施設を目指した。

2. 事業の概要

本施設は、市役所の支所・保健センター・公民館・図書館といった市民サービス機能を統合したものである。約4,100㎡の床面積のうち3,000㎡近くを柱などに燃えしろを持たせて太くし、表面の燃えしろが燃えても建物は崩壊しないようにした燃えしろ設計による木造準耐火構造とし、木構造の最大化を図った。

メインファサードは、210mm角の一般製材を4本束ねた列柱によって大庇を支える、深い陰影のある構成とし、地域交流の拠点にふさわしい親しみやすい表情を創りだした。内部空間では、一般製材とエンジニアリングウッドをその特性を生かすよう組み合わせ、力強い架構と繊細なルーバーによって木に包まれる空間となっている。建物中央にハイサイドライトを設け、柔らかな自然光が注ぐ2層吹き抜けの中央ロビー（おちあいの杜）が各交流機能を優しく繋ぎとめている。



中央ロビー おちあいの杜

3. 事業の成果

市内で生産される木チップとペレットのボイラーを熱源とした地産地消の「オール・バイオマス熱源」の空調システムを採用し、CO₂排出量を大幅に縮減するとともに、燃焼性の高いペレットとリージナブルなチップを併用することでランニングコストの削減を意図した。



バイオマスボイラー室

4. おわりに

木に包まれる総合センターは、竣工後昼夜を問わず来訪者が増加し、まさに交流拠点として根付き始めている。



落合総合センター 南東面外観

継続的な地域産木材の活用である、化石燃料を一切用いないバイオマス熱源システムの安定した運転状況は、全国から多くの視察があり、地球環境に配慮した技術の普及促進に寄与している。